琉球大学学術リポジトリ

The prognostic impact of a concentric left ventricular structure evaluated by transthoracic echocardiography in patients with acute decompensated heart failure : A retrospective study

メタデータ	言語:
	出版者: University of the Ryukyus
	公開日: 2020-09-14
	キーワード (Ja):
	キーワード (En): Acute heart failure, Left ventricular geometry, Transthoracic echocardiography
	作成者: Yamaguchi, Satoshi, 山口, 怜
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/46667

（別紙様式第３号）

論　文　要　旨

論　文　題　目

The prognostic impact of a concentric left ventricular structure evaluated by transthoracic echocardiography in patients with acute decompensated heart failure: a retrospective study

（経胸壁心臓超音波検査で評価した求心性左室構造の急性非代償性心不全患者における予後予測能：後方視的研究）

氏　名　山口　怜

論文要旨

左心室圧負荷に対する代償機構として、左心室壁は左室内腔に比べて相対的に厚くなる。これを、左心室求心性構造（concentric left ventricular structure）と呼ぶ。左心室求心性構造は、代償機構だが、高血圧患者における心血管系有害事象に関わるとされる。我々は、経胸壁心臓超音波検査で評価した求心性左心室構造の急性非代償性心不全患者における予後予測能を検討した。

方法：2014年5月から2016年10月、豊見城中央病院循環器内科に New York Heart Association Class 分類Ⅲまたは IV の急性非代償性心不全で入院した連続426例のうち、心臓超音波検査を含む臨床データが得られた385症例を対象とした。さらに中等度以上の大動脈弁狭窄症、大動脈弁閉鎖不全症、僧帽弁閉鎖不全症などの弁膜症例を除いた非弁膜症性心不全患者344例を非弁膜症性心不全群として追加解析した。経胸壁心臓超音波検査により算出した相対的壁厚（RWT：relative wall thickness）と左心室容積／左心室拡張末期

20×20

論文要旨

容量（LVM/LVEDV:left ventricular mass/ left ventricular end-diastole volume）を中央値で2群に分けた。総死亡に対する生存曲線をRWTとLVM/LVEDVの2群で比較し、単変量および GWTG 心不全スコア（Get With The Guidelines Score®）で調整したCox比例ハザードモデルで高RWTと高LVM/LVEDVのハザード比（HR）を計算した。

結果：フォローアップ中央値235日間で95人の症例が死亡した。高RWT群は低RWT群に比べて総死亡が多かった（Log-rank test, P = 0.009）。Cox比例ハザードモデルで高RWTは心臓血管イベントを予測するリスクであった（単変量HR 1.72 [95%信頼区間 1.14-2.61] P = 0.01; 調整HR 1.95 [1.28-2.97] P = 0.002）。一方、高LVM/LVEDVと低LVM/LVEDVで総死亡の割合に差はなかった（Log-rank test, P = 0.42）。非弁膜症性心不全群でも、高RWT群は低RWT群に比べ総死亡が多く、Cox比例ハザードモデルでも有意なリスクであった（単変量HR 1.65 [1.05-2.58] P = 0.03; 調整HR 1.96 [1.24-3.11] P = 0.004）。一方、高LVM/LVEDVと低LVM/LVEDVで総死亡の割合に差はなかった（P = 0.42）。

結論：左心室求心性構造は、急性非代償性心

20×20

論　文　要　旨

不全患者で予後不良と関連する。

20 × 20